

第21回（平成30年度第1回）
セーフコミュニティ 学校安全対策委員会

《会 議 次 第》

日時：平成30年4月12日(木) 18:30～

場所：市役所3階 301会議室

1. 開 会

2. 報告事項

(1) 平成30年度の主なスケジュールについて

3. 協議事項

(1) 平成29年度の取り組み実績について

(2) 平成30年度取り組み方針（案）について

(3) 再認証取得に向けた本審査について

①現地審査スケジュール・活動視察

②申請書

③プレゼン資料

4. その他

5. 閉 会

学校安全対策委員会 委員名簿

(敬称略・順不同)

	団体等名称	氏名
1	久留米市校区まちづくり連絡協議会	稲田 善嗣
2	一般社団法人 久留米市交通安全協会	広津 猛
3	久留米市校区青少年育成協議会連絡会議	馬場園 由美
4	久留米市防犯協会連合会	猪飼 廣幸
5	久留米市校区人権協連合会	綾部 章子
6	久留米市小学校長会	柳瀬 和之
7	久留米市小・中学校PTA連合協議会(小学校)	鐘ヶ江 奈津子
8	久留米市中学校長会	佐野 淳
9	久留米市小・中学校PTA連合協議会(中学校)	古賀 義輝
10	筑後地区公立高等学校等校長協会久留米支部	岸 宏志
11	上津小学校	新山 了一
12	上津校区まちづくり振興会	諸藤 太助
13	久留米警察署少年課	鹿毛 浩司
14	久留米警察署交通第一課	井上 秀晴
15	久留米市協働推進部安全安心推進課	今村 浩樹
16	久留米市子ども未来部青少年育成課	淵上 三郎
17	久留米市教育部学校教育課	平田 敬一

資料 2

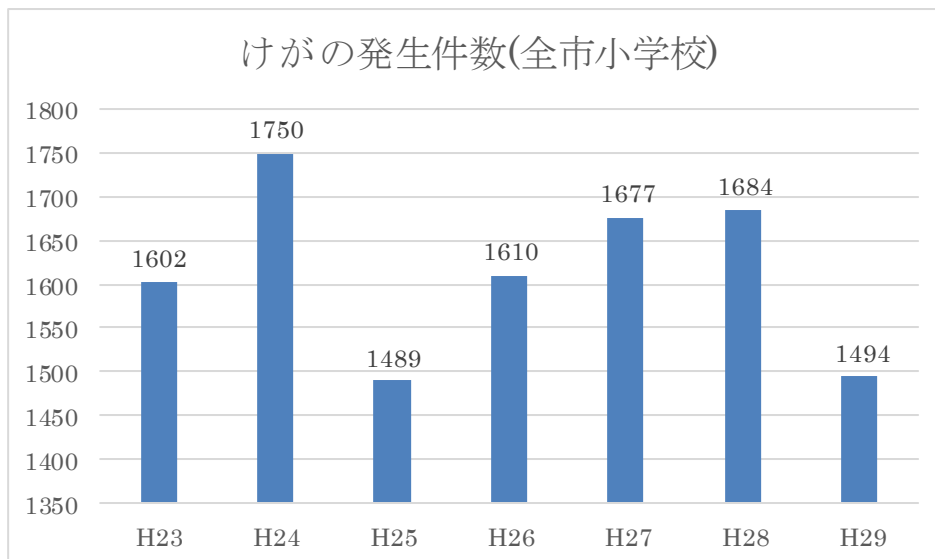
平成 29 年度取り組み実績及び平成 30 年度取り組み方針

学校安全対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
学校の安全	3-①	《学校内の安全指導》 校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施
	3-②	《学校内の安全指導》 校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取組の実施
	3-③	《学校内の安全指導》 いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施
	3-④	《学校内の安全指導》 火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施
	3-⑤	《登下校・放課後の安全指導》 交通安全教育の実施
	3-⑥	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した交通指導の実施
	3-⑦	《登下校・放課後の安全指導》 防犯教育の実施
	3-⑧	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した防犯の取組の実施

【平成 29 年度取り組み実績】

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



※出典は「日本スポーツ振興センター災害給付対象けがの件数」

イ. 成果〈数値で表せないもの〉

子どもたちの防災に対する意識の向上

- ・学校で火災や地震が起きた時の避難の仕方を理解し、避難訓練に真剣に取り組む子ども達が増え、災害時に落ち着いて避難することに対する自信が高まっている。

ウ. 29年度の取り組みで最も成功した事例

けが予防への意識の向上

- ・各学校の児童による委員会活動において、安全委員会が校内安全マップを作成したり、保健委員会がけがで保健室を利用した人数をグラフ化して廊下に掲示したり、放送委員会が毎月21日のセーフコミュニティの日に学校の安全を呼びかける放送を流したりするなど、子ども達が自分たちで安全について呼びかける活動の活性化により、けが予防に対する意識が高まった。



【全校集会で学校内での安全な過ごし方について児童会から提案する様子】

エ. 29年度で最も積極的に取り組んだ活動

校舎内で安全に過ごすための知識、意識、態度を高める取組

- ・校舎内でけがの多い場所、時間帯などを調べ、それをもとに、校内安全マップを作成したり、廊下や階段の安全な通り方を呼びかけたりした。
(本取組を重点として取り組んだ学校は市内46校中23校で、学校の安全8施策の中で一番多かった。)

オ. 分野横断的に行っていること

学校教育課が主管となって、安全安心推進課、道路整備課、路政課、警察や国・県等と連携した久留米市通学路安全推進会議を開催。通学路の安全確保について協議を行い、その結果をハード整備にもつなげている。

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

平成25年度から、セーフコミュニティ「学校の安全」のモデル校上津小学校で成果を上げた取組、平成29年度から行っている取組を、各学校の実態に応じた取組の中に反映させていくこと。

【平成 30 年度取り組み方針】

具体的施策		30 年度取り組み方針
3-①	《学校内の安全指導》 校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施	<u>校舎内で安全に過ごすための知識、意識、態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> ○廊下の通り方や雨の日の過ごし方のめあての設定 (42 校) ○委員会児童による校内安全啓発ポスターや標語の掲示 (37 校) ○けがで保健室を利用した人数や場所をグラフ化し掲示 (27 校) ○全校朝会等でけがの件数の報告と安全啓発 (26 校) ○セーフコミュニティの日の掲示、校内放送 (15 校) 等 ★重点取組校 (20 校)
3-②	《学校内の安全指導》 校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取組の実施	<u>校舎外で安全に過ごすための知識、意識、態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> ○学校で統一した外遊びのルールづくりと啓発活動 (39 校) ○委員会から安全な遊びの紹介 (放送やVTR) (31 校) ○委員会から運動場でのけがが状況の変化を報告 (22 校) 等 ★重点取組校 (1 校)
3-③	《学校内の安全指導》 いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施	<u>いじめについての理解やいじめをしない、させない、許さない態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめに関するアンケートの実施 (毎月) (46 校) ○いじめの認知や対応の仕方についての教職員研修の実施 (46 校) ○ネットいじめに関する親子学習会の実施 (14 校) 等 ★重点取組校 (18 校)
3-④	《学校内の安全指導》 火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施	<u>災害時の避難についての知識や安全に避難する態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> ○火災や地震、風水害の避難訓練、下校訓練の実施 (46 校) ○防災に関する学習の実施 (視聴覚教材の活用、防災センター等の体験活動) (46 校) ○着衣水泳の実施 (46 校) 等
3-⑤	《登下校・放課後の安全指導》 交通安全教育の実施	<u>交通ルールの知識や、ルールを守る意識・態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者や関係機関、地域団体と連携した交通教室の実施 (46 校) ○交通安全についての学習の実施 (46 校) ○ヘルメット着用の啓発活動 (2 校) 等 ★重点取組校 (2 校)
3-⑥	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した交通指導の実施	<u>学校・地域・保護者が連携した地域の交通安全上の危険箇所に対する理解、交通ルールを守る意識や態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員による朝の挨拶運動や朝の交通指導の実施 (46 校) ○危険箇所等における PTA や地域団体、青パトによる安全指導 (46 校) ○学校や地域が協働で安全マップを作成や配布 (33 校) 等 ★重点取組校 (4 校)
3-⑦	《登下校・放課後の安全指導》 防犯教育の実施	<u>不審者対処法についての理解や実践的態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> ○ロールプレイ等を取り入れた防犯教室の実施 (46 校) ○防犯についての指導の実施 (全校朝会や特別活動) (46 校) ○防犯のキーワード「いかのおすし」の校内掲示 (2 校) 等
3-⑧	《登下校・放課後の安全指導》 地域・保護者と連携した防犯の取組の実施	<u>学校・地域・保護者が連携した防犯上の危険箇所に対する理解や実践的態度を高める取組</u> <ul style="list-style-type: none"> ○「校区安全マップ」を活用し、危険箇所に重点を置いた防犯パトロールの実施 (46 校) ○子ども 110 番の家の設置促進 (42 校) ○防犯に関する学習会の実施 (18 校) 等 ○学校メールを活用した不審者情報の共有 (12 校) ★重点取組校 (1 校)

※当初、上津小学校をモデル校として取り組みを進め、現在は各学校の特性を活かしながら全校へ拡大しています。

【学校安全】 3-① 《学校内の安全指導》校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施								
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校でのけがは、「休み時間」に最も多く発生し、校舎内では「教室」や「廊下」で起こるものが多い 学年が上がるほど、校舎内でのけがが多くなる傾向がある 						
	主観的課題	学校内で安全に過ごすための認識や意識が低い						
目標	学校内・校舎内でのけがの件数の減少							
内容	各学校の上級生児童で組織する保健委員会や安全委員会による呼びかけ活動を行い、教室や廊下で安全に過ごす意識を高める							
対象者	児童							
実施者	児童、教職員							
対策委員会の関わり	取組に対する助言							
29年度の実績及び改善した点等	<p>モデル校上津小学校で効果をあげた「上級生で組織された委員会を中心とした呼びかけ活動」を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、保健委員会や安全委員会による呼びかけ活動等を実施した。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員会児童による校内安全マップの作成、周知 けがで保健室を利用した人数を保健委員会でグラフ化し廊下に掲示 毎月21日のセーフコミュニティの日の掲示、放送委員会による校内放送等 <p>【本施策を重点取組とした学校 23校】</p>							
30年度の方針及び課題等	<ul style="list-style-type: none"> 委員会、児童会を中心とした自治的な活動の推進 けがの多い場所や時間帯に対応する取組の推進 							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	校内安全マップの作成、啓発ポスターの作成と掲示【上津小】	回	1	1	1	1		1
	児童による主体的な取組及び実施回数【全小】		全校へ拡大後⇒					
【短期】認識・知識	校舎内を走らないように意識している児童の割合【上津小】	%	65.9	76.1	85.4	92.4		98
	校舎内のルールが分かる児童の割合 [各学校の校舎内の安全に関するアンケート集計]		全校へ拡大後⇒					
【中期】態度・行動	校舎内を走らないように意識している児童の割合【上津小】	%	65.9	76.1	85.4	92.4		58
	校舎内のルールを守ろうとする児童の割合 [各学校の校舎内の安全に関するアンケート]		全校へ拡大後⇒					
【長期】状況	学校でのけがの件数【上津小】 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	件	59	54	52	59		4.4
	校舎内でけがをした児童の割合 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	%	4.4	4.6	4.3	4.8		

【学校安全】 3-② 《学校内の安全指導》校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取組の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校でのけがは、「休み時間」に最も多く発生し、校舎外では「運動場」で起こるものが多い ・学年が上がるほど、校舎外のけがが多くなる傾向がある 						
	主観的課題	学校内で安全に過ごすための認識や意識が低い						
目標	学校内・校舎外でのけがの件数の減少							
内容	各学校の上級生児童で組織する児童会が、代表委員会や全校児童集会等を活用した、自主的・自治的な活動を行い、運動場で安全に遊ぶ意識を高める							
対象者	児童							
実施者	児童、教職員							
対策委員会の関わり	取組に対する助言							
29年度の実績及び改善した点等	<p>モデル校上津小学校で効果をあげた、「児童会による自主的・自治的活動」を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、児童会が全校集会や給食時間の校内放送で外遊びのルールや注意を呼びかける取組等を行った。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会から安全な遊びの紹介（放送やVTR） ・委員会から運動場でのけが状況の変化を全校朝会等で報告 ・児童会による学校で統一した外遊びのルールづくりと啓発活動 <p>【本施策を重点取組とした学校 1校】</p>							
30年度の方針及び課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会、児童会を中心とした自治的な活動の推進 ・けがの多い場所や時間帯に対応する取組の推進 							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	児童主体での楽しく安全な遊びの紹介【上津小】	回	1	1	1	1	1	
	児童による主体的な取組及び実施回数【全小】		全校へ拡大後⇒					
【短期】認識・知識	安全に過ごすように気をつけている児童の割合【上津小】	%	65.9	76.1	96.0	96.0	95	
	校舎外のルールが分かる児童の割合 [各学校の校舎外の安全に関するアンケート]		全校へ拡大後⇒					
【中期】態度・行動	安全に過ごすように気をつけている児童の割合【上津小】	%	65.9	76.1	96.0	96.0	82	
	校舎外のルールを守ろうとする児童の割合 [各学校の校舎外の安全に関するアンケート]		全校へ拡大後⇒					
【長期】状況	学校でのけがの件数【上津小】 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	件	59	54	52	59	3.6	
	校舎外でけがをした児童の割合 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	%	3.5	4.6	3.7	4.3		

【学校安全】 3-③ 《学校内の安全指導》いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、いじめの認知件数は、年間 500～600 件程度発生している ・市民は「いじめや体罰を防止し、安心して学べる学校づくり」を教育行政に求めている 						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを受けた児童は、大人に相談することは少なく、周囲の友達やアンケート等で発覚することが多い ・表面化している「SNSによるネットいじめ」は、全体の1%程度ではあるが、潜在的にはさらに多くのいじめが起こっていると考えられる 						
目標	いじめ解消率の向上							
内容	人間関係調整力を育むソーシャルスキルトレーニングや、いじめを発見するための定期的なアンケート、教育相談など、いじめの芽を摘む積極的な取組により、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を図る							
対象者	児童							
実施者	教職員、関係機関							
対策委員会の関わり	取組に対する助言							
29年度の実績及び改善した点等	<p>モデル校上津小学校で効果をあげた、「いじめの芽を摘む積極的な活動」を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、相談ポストの設置や他者と気持ちのよい接し方について考えさせるソーシャルスキルトレーニング等を実施した。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関するアンケートの毎月実施 ・いじめの認知や対応の仕方についての教職員研修の実施 ・相談ポストの設置 <p>【本施策を重点取組とした学校 14校】</p>							
30年度の方針及び課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの芽をつむ積極的な未然防止の取組の推進(いじめの態様に応じた取組) ・ネットいじめに対応する取組の推進 							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	いじめに関する教職員研修の実施【上津小】	回	1	1	1	1	1	
	各学校の実態に応じた取組回数【全小】		全校へ拡大後⇒					
【短期】 認識・知識	いじめに関する児童アンケートの実施【上津小】	回	11	11	11	11	99	
	いじめは許されないことを理解している児童の割合 [各学校のいじめに関するアンケート]	%	全校へ拡大後⇒					
【中期】 態度・行動	いじめに関する教育相談の実施【上津小】	回	3	3	3	3	84	
	いじめをしないように気をつけている児童の割合 [各学校のいじめに関するアンケート]	%	全校へ拡大後⇒					
【長期】 状況	いじめの認知件数【上津小】	件	-	0	6	2	82.6	
	いじめの解消率 [児童生徒の問題行動に関する月例調査]	%	91.6	93.7	90.9	88.5		

【学校安全】 3-④ 《学校内の安全指導》火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施 <新規>

課題	客観的課題	・小・中学校での安全教育の中で、「防災に対する意識を高めるための防災教育」に対する市民の期待は高い					
	主観的課題	近年、多発する地震や水害により、災害から身を守る安全教育の見直しを図る機運が高まっている					
目標	災害時の避難に不安を感じない児童の増加						
内容	実際の災害時を想定した、実践的な避難訓練などにより、万が一の災害時に落ち着いて安全に避難できる知識や態度の育成を図る						
対象者	児童						
実施者	教職員、関係機関						
対策委員会の関わり	取組に対する助言						
29年度の実績及び改善した点等	<p>市内全小学校において、災害の際に落ち着いて安全に避難することができるようにするために、実際の火災を想定した体験的な避難訓練、火災や地震が起こった時のために日常的に避難場所を確認する取組等を実施した。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災や地震の避難訓練、下校訓練の実施 ・防災に関する学習会の実施(視聴覚教材、防災センター等の体験活動) ・着衣水泳の実施 						
30年度の方針及び課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の避難場所の認知度が低い、自治組織主催の避難訓練への子どもの参加率が低い →学校と地域の防災訓練の合同開催についての協議 ・自分の身を自分で守る意識を高める取組の推進 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	各学年の取組及び実施回数	回					1
【短期】認識・知識	災害時の避難の合言葉が分かる児童の割合 [各学校の防災に関するアンケート]	%					97
【中期】態度・行動	災害時の避難の仕方を踏まえて避難訓練にのぞむ児童の割合 [各学校の防災に関するアンケート]	%					91
【長期】状況	学校内での災害に不安を感じない児童の割合 [各学校の防災に関するアンケート]	%					88

【学校安全】 3-⑤ 《登下校・放課後の安全指導》交通安全教育の実施

課題	客観的課題	交通ルールを理解していても、守れていない児童がいる					
	主観的課題	交通上の危険に対する予測が不十分なうえ、横断歩道の渡り方や自転車の乗り方に慣れていない					
目標	登下校時・放課後など学校外でけがをする児童の割合の減少						
内容	地域や保護者、外部団体が参画した、実践的な交通安全教室の実施などにより、交通ルールについての理解や交通ルールを守ろうとする態度の育成を図る						
対象者	児童						
実施者	教職員、地域、保護者、関係機関						
対策委員会の関わり	交通安全教室の実施に対する連携(ゲストティーチャー、体験コーナーの運営)						
29年度の実績及び改善した点等	<p>モデル校上津小学校で効果をあげた、「家庭や地域、外部団体が参画した体験的な交通安全教室などの取組」を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、警察と連携した歩行訓練教室や自転車教室、自動車学校と連携した交通安全教室等を実施した。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域団体ボランティアと連携した交通教室の実施 ・交通安全についての学習の実施 ・ヘルメット着用の啓発活動 <p>【本施策を重点取組とした学校 2校】</p>						
30年度の方針及び課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域、外部団体と連携した、体験的な交通安全教室などの取組の推進 ・自転車ヘルメット着用、自転車保険加入について啓発する取組の推進 ・交通安全上の危険箇所を周知し注意喚起する取組の推進 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	保護者や地域団体を活用した実践的な交通安全教室の実施【上津小】	回	1	1	1	1	1
	各学年の取組及び実施回数【全小】		全校へ拡大後⇒				
【短期】認識・知識	ヘルメットの所持【上津小】	%	30.6	26.8	33.8	38.9	99
	交通ルールが分かる児童の割合 [各学校の交通安全に関するアンケート]		全校へ拡大後⇒				
【中期】態度・行動	ヘルメットの着用【上津小】	%	-	13.0	14.0	10.3	86
	交通ルールを守ろうとする児童の割合 [各学校の交通安全に関するアンケート]		全校へ拡大後⇒				
【長期】状況	交通ルール、マナーについての正しい認識【上津小】	%	-	76.1	-	-	0.8
	学校外でのけがの件数【上津小】 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	件	5	6	10	8	
	学校外でけがをした児童の割合 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	%	0.9	1.0	0.6	0.7	

【学校安全】 3-⑥ 《登下校・放課後の安全指導》地域・保護者と連携した交通指導の実施

課題	客観的課題	交通ルールを理解していても、守れていない児童がいる						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路には、交通量が多く歩道が狭いなど、事故の危険性が高い箇所がある ・登下校時の事故や犯罪に不安を感じている児童や保護者は多く、子どもの安全を確保するためには、関係機関と地域や保護者が連携した取り組みが不可欠である 						
目標	登下校時・放課後など学校外でけがをする児童の割合の減少							
内容	地域の交通安全上の危険箇所や危険が多い時間帯に応じた交通指導や、地域組織や PTA 組織が連携した交通指導の実施により、地域の交通安全上の危険を理解し、交通安全に気を付けて登下校する態度の育成を図る							
対象者	児童							
実施者	教職員、地域、保護者、関係機関							
対策委員会の関わり	交通指導の連携・調整							
29 年度の実績 及び 改善した点等	<p>モデル校上津小学校で効果をあげた、「危険箇所・時間帯に対応した交通指導」などの取組を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、交通安全上の危険箇所に重点を置いた交通指導を実施した。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員による朝の挨拶運動や朝の交通指導の実施 ・危険箇所等における PTA や地域団体、青パトによる安全指導 ・学校や地域が協働で安全マップを作成や配布 <p>【本施策を重点取組とした学校 3 校】</p>							
30 年度の方針 及び 課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所・時間帯に対応した交通指導などの取組の推進 ・地域の危険箇所についての認知度を上げるための取組の推進 							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	PTA や各地域団体による交通指導の実施【上津小】	回	36	36	36	36	1	
	各学年の取組及び実施回数【全小】		全校へ拡大後⇒					
【短期】認識・知識	適切な人員の配置【上津小】	人	-	640	690	700	85	
	地域の交通安全上の危険箇所が分かる児童の割合 [各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	全校へ拡大後⇒					
【中期】態度・行動	適切な人員の配置【上津小】	人	-	640	690	700	76	
	交通安全に気を付けて登下校する児童の割合 [各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	全校へ拡大後⇒					
【長期】状況	交通ルール、マナーについての正しい認識【上津小】	%	-	76.1	-	-	0.8	
	学校外でのけがの件数【上津小】 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	件	5	6	10	8		
	学校外でけがをした児童の割合 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	%	0.9	1.0	0.6	0.7		

【学校安全】 3-⑦ 《登下校・放課後の安全指導》防犯教育の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報の件数は、年間 50～70 件程度報告されており増加傾向にある ・小・中学校での安全教育の中で、「不審者対応の仕方を身に付ける防犯教育」に対する市民の期待は高い 					
	主観的課題	防犯グッズなどは多数あるが、不審者に遭遇した時に適切に使用できる児童は少ない。					
目標	登下校時に不安を感じない児童の割合の向上						
内容	実際に不審者に遭遇した時に咄嗟の対応ができるような実践的な防犯教室の実施により、不審者対応に対する理解や実際の対応に生かしていこうとする態度の育成を図る						
対象者	児童						
実施者	教職員、地域、保護者、関係機関						
対策委員会の関わり	防犯教室の実施に対する連携(ゲストティーチャー、体験コーナーの運営)						
29 年度の実績 及び 改善した点等	<p>モデル校上津小学校で効果をあげた、「家庭や地域、外部団体が参画した体験的な防犯教室などの取組」を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、ロールプレイを取り入れ、実際の声かけ事案等への対応の仕方について話し合うなど、実践的な防犯教室を実施した。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイ等を取り入れた防犯教室の実施 ・防犯についての指導の実施（全校朝会や特別活動） ・防犯のキーワード「いかのおすし」の校内掲示 						
30 年度の方針 及び 課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域、外部団体と連携した体験的な防犯教室などの取組の推進 ・防犯上の危険箇所を周知し注意喚起する取組の推進 						
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	校区安全マップの作成と不審者対応の安全教育の実施【上津小】	回	1	1	1	1	1
	各学年の取組及び実施回数【全小】		全校へ拡大後⇒				
【短期】認識・知識	「子ども 110 番の家」の認知【上津小】	%	-	66.6	70.4	75.0	91
	不審者への対処法が分かる児童の割合 [各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]		全校へ拡大後⇒				
【中期】態度・行動	登下校時の不安感【上津小】	%	-	22.5	27.0	23.0	61
	不審者への対処法を実践できる児童の割合 [各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]		全校へ拡大後⇒				
【長期】状況	不審者による被害【上津小】	件	-	3	2	0	82
	登下校時に不安を感じない児童の割合 [各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	全校へ拡大後⇒				

【学校安全】 3-⑧ 《登下校・放課後の安全指導》地域・保護者と連携した防犯の取組の実施

課題	客観的課題	不審者情報の件数は、年間 50～70 件程度報告されており増加傾向にある						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども 110 番の家」が地域にあることを知っている児童は少ない ・学校の教職員のみで防犯指導をするには物理的に限界があり、子どもの防犯上の安全を確保するためには地域や保護者、関係機関が連携した取組が不可欠である 						
目標	登下校時に不安を感じない児童の割合の向上							
内容	地域や保護者と連携した校区の危険箇所探検や安全マップづくりなどの取組により、地域の防犯上の危険箇所への理解や不審者に気を付けて登下校する態度の育成を図る							
対象者	児童							
実施者	教職員、地域、保護者、関係機関							
対策委員会の関わり	防犯の取組の連絡・調整							
29 年度の実績 及び 改善した点等	<p>モデル校上津小学校で効果をあげた、「地域や保護者と連携した安全マップづくりや校区探検の取組」を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、地域や保護者と連携して地域の危険箇所を確認したり防犯マップをつくったり、地域の方から防犯の話をしてもらったりする取組を実施している。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校区安全マップ」を活用し、危険箇所に重点を置いた防犯パトロールの実施 ・子ども 110 番の家の設置促進 ・防犯に関する学習会の実施 <p>【本施策を重点取組とした学校 1 校】</p>							
30 年度の方針 及び 課題等	・地域や保護者と連携した安全マップづくりや校区探検の取組の推進							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	「校区安全マップ」見直しと防犯パトロール実施【上津小】	回	24	24	24	24	1	
	各学年の取組及び実施回数【全小】		全校へ拡大後⇒					
【短期】認識・知識	校区安全マップの活用【上津小】	増減	-	増	増	増	71	
	地域の防犯上の危険箇所が分かる児童の割合 [各学校の登下校や放課後の防犯に関するアンケート]	%	全校へ拡大後⇒					
【中期】態度・行動	登下校時の不安感【上津小】	%	-	22.5	27.0	23.0	61	
	不審者に気を付けて登下する児童の割合 [各学校の登下校や放課後の防犯に関するアンケート]		全校へ拡大後⇒					
【長期】状況	不審者による被害【上津小】	件	-	3	2	0	69	
	登下校時に不安を感じない児童の割合 [各学校の登下校や放課後の防犯に関するアンケート]	%	全校へ拡大後⇒					

(3) 学校安全対策委員会

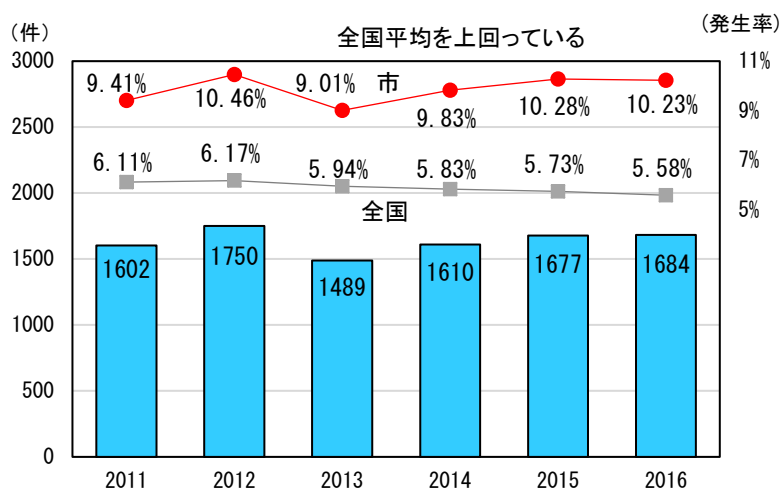
久留米市の7歳～17歳におけるけがの状況については、「学校」でのけがが最も多く、原因は「転倒」によるものが約50%を占めています。

また、子どもが巻き込まれる交通事故や不審者による被害が発生するなど、登下校時の事故や犯罪に対する不安を感じている子どもや保護者も多いことなどから、学校安全対策委員会では「学校の校舎内・校舎外でのけが」と「登下校時の事故や犯罪」の防止に視点を置いて取り組みを進めています。

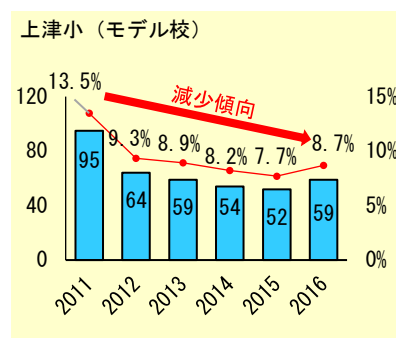
久留米市内の小学校におけるけがの件数については、年間1,600～1,700件程度で推移しており、発生率は10%前後と、全国と比較して大きく上回っています。

また、けがの件数を学年別に見ると、学年が上がるにつれけがの件数は増え、発生率も高くなっています。

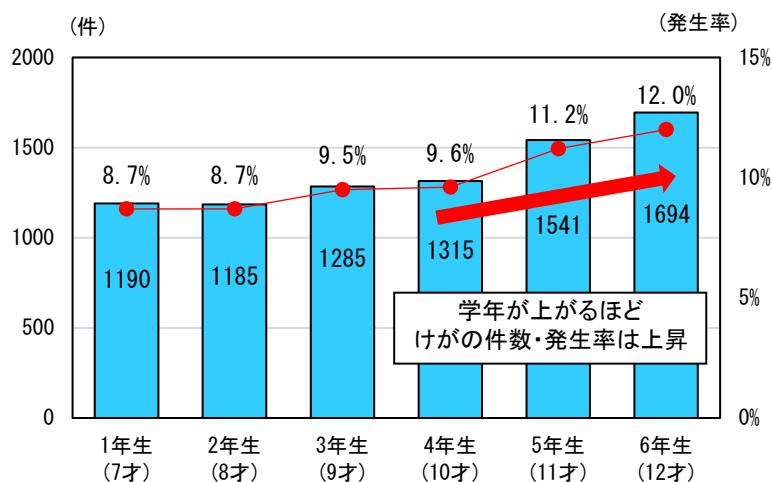
図表 小学校でのけがの件数と発生率の推移



出展：日本スポーツ振興センター



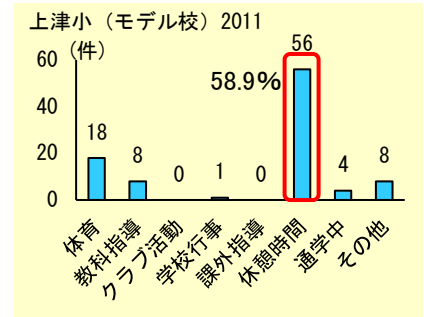
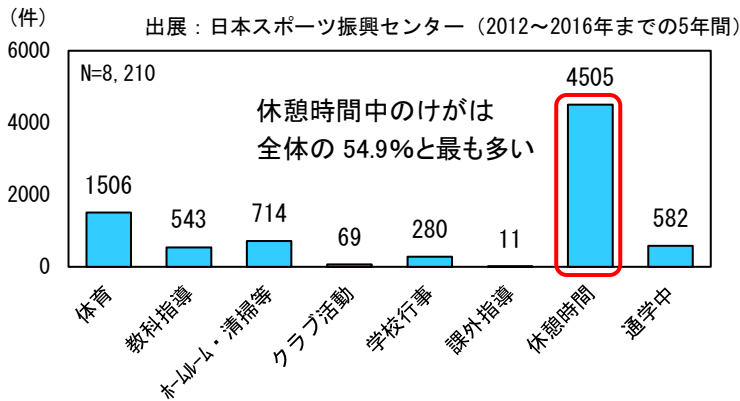
図表 学年別けがの件数と発生率 (2012～2016年までの5年間)



出展：日本スポーツ振興センター

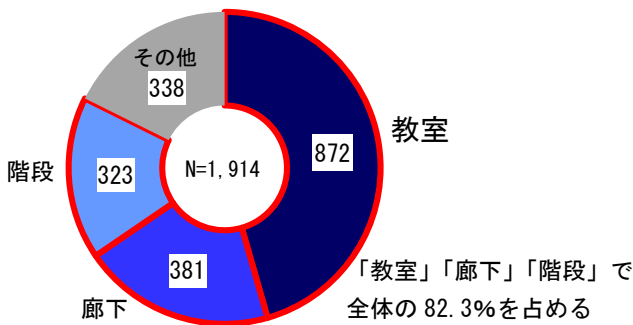
けがをしたときの状況を見ると、「休憩時間」に起こるけがが54.9%を占めており、「休憩時間」に校舎内でけがをした場所は、主に「教室」「廊下」「階段」で全体の80%以上、校舎外でけがをした場所は「運動場」が全体の90%以上となっています。

図表 けがをしたときの状況



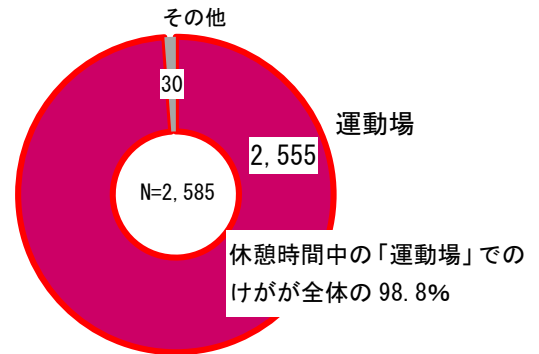
図表 休憩時間に「校舎内」でけがをした場所

出展：日本スポーツ振興センター（2012～2016年までの5年間）



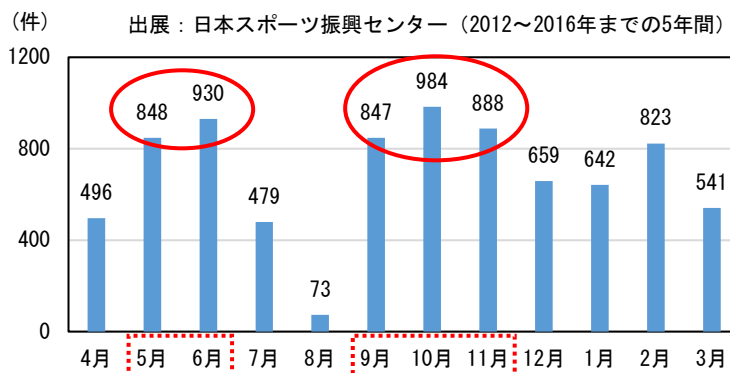
図表 休憩時間に「校舎外」でけがをした場所

出展：日本スポーツ振興センター（2012～2016年までの5年間）



また、月別に見ると、5月や6月、また9月から11月にかけて多く発生しています。

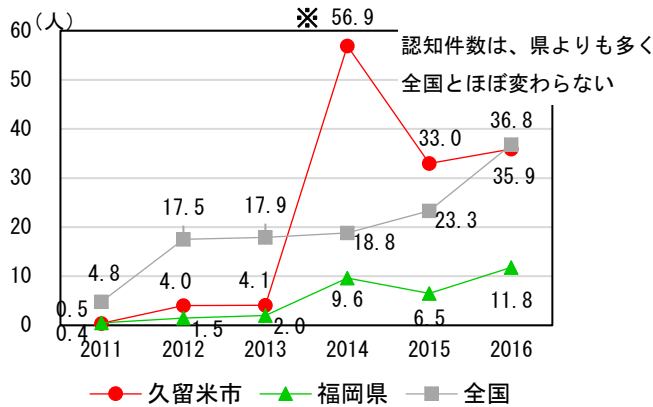
図表 月別けがの件数



久留米市のいじめの認知件数は、年間 500～600 件で推移しており、現在の人口 1,000 人当たりのいじめの認知件数では、全国とほぼ変わらず、福岡県よりも高い状況となっております。

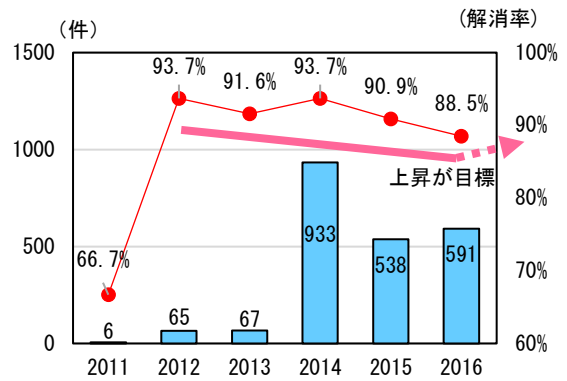
いじめの解消率については、2014 年以降いじめの認知件数が増えたことに伴い、丁寧かつ継続的な見守りが必要な児童も増えていますが、今後は一定期間の見守り後、いじめが解消したと判断できる児童の割合を上昇させることを目標に、進めていきます。

図表 人口1,000人当たりのいじめの認知件数



出展：文部科学省統計

図表 いじめの認知件数と解消率

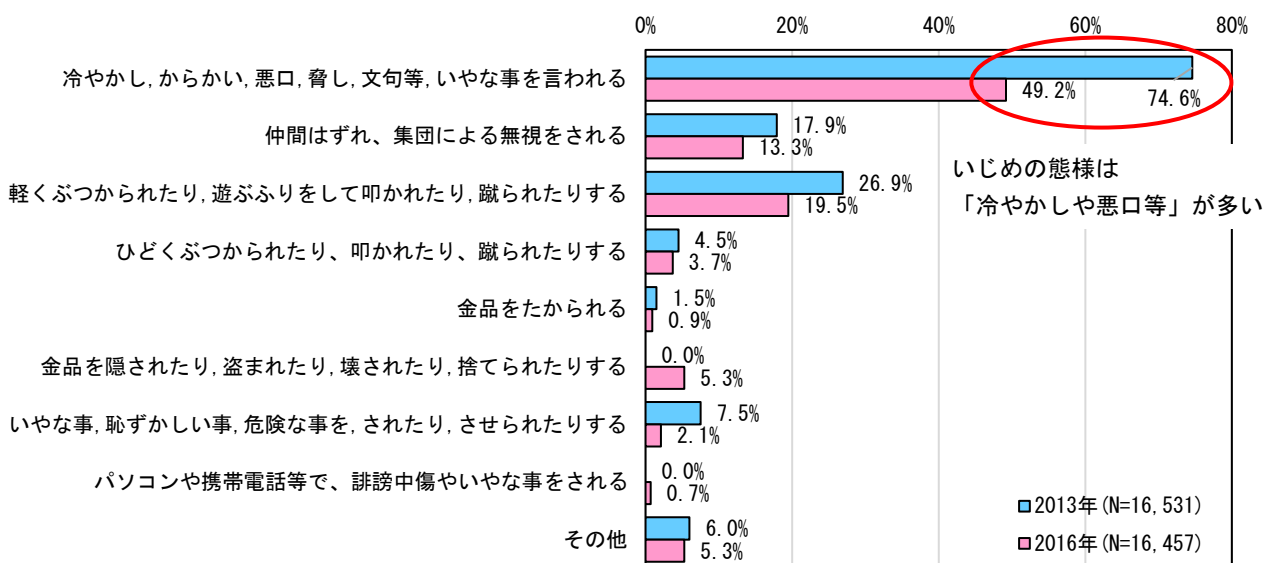


出展：文部科学省統計

※文部科学省の方針により、2013年6月に「いじめ防止対策推進法」が施行され、いじめの定義が「いじめの芽」や「いじめの兆候」も含め「いじめ」として認知すること、早期発見・解消に着手すること、と変更されたことによるものであり、認知件数の増加は、いじめの早期発見の取り組みの成果として肯定的な結果と捉えています。

いじめの態様については、「冷やかしたり悪口などいやな事を言われる」が最も多くなっており、次いで「ぶつかられる・叩かれる・蹴られる」があがっています。

図表 いじめの態様別の割合



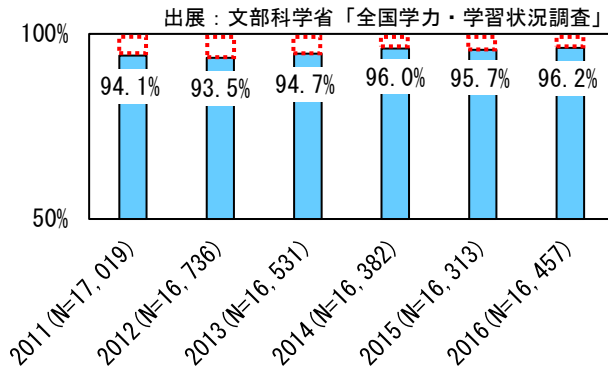
(いじめの被害を受けた児童に、「いじめの態様」についてアンケート)

※2013年は複数回答 出展：文部科学省「児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

いじめに対する認識について、児童にアンケート調査したところ「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と肯定的に認識している児童は95%程度です。

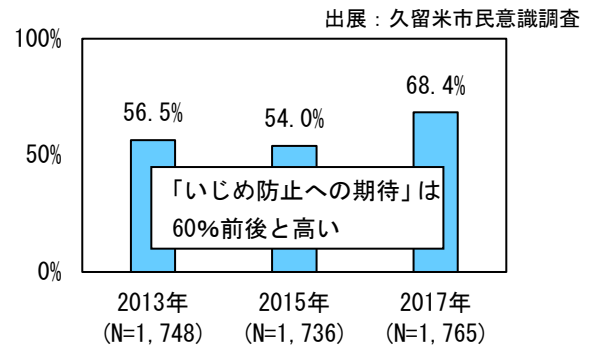
また、学校の教育で期待することについて市民にアンケート調査したところ「いじめ対策や体罰防止など安心して学べる学校づくり」に対する期待が60%前後と高いことがわかります。

図表 「いじめに対する正しい認識」



(児童に、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」についてアンケート)

図表 「いじめ・体罰防止など安心して学べる学校づくり」への期待感(複数回答)

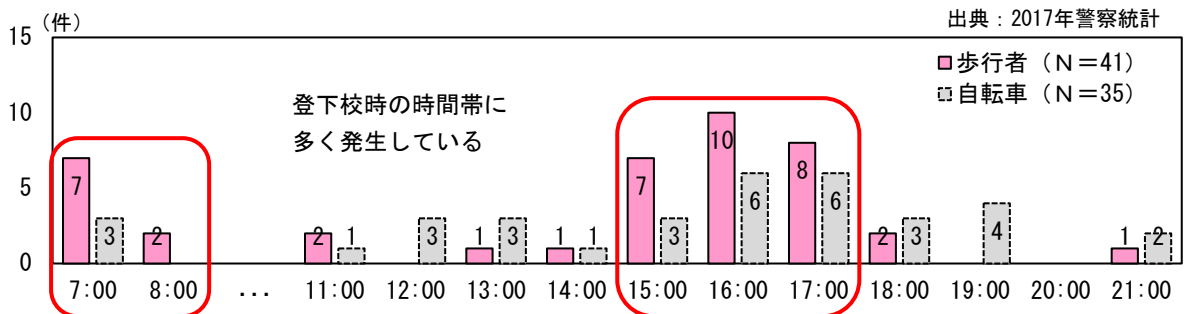


(市民に、「学校の教育に期待すること」についてアンケート)

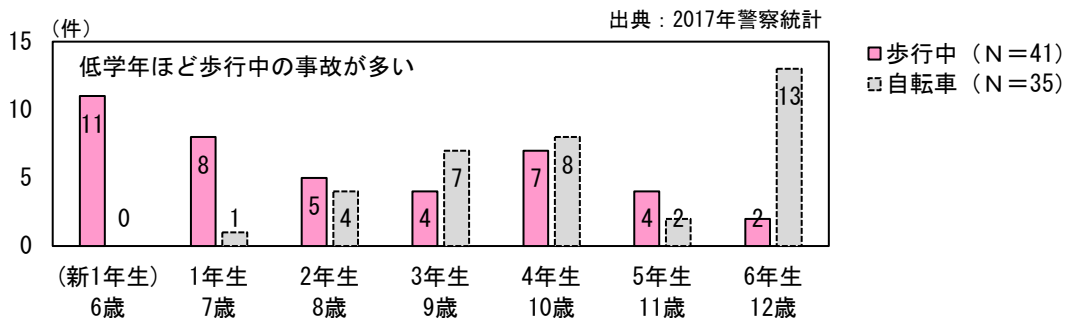
小学生の交通事故発生状況を見ると、朝の通学時や夕方の下校時の時間帯に多く発生しています。

また、年齢別に見ると、低学年ほど歩行中の事故が多く、特に入学して間もない1年生が最も多くなっています。

図表 小学生(6歳~12歳)の歩行中及び自転車乗用中における時間帯別交通事故発生件数



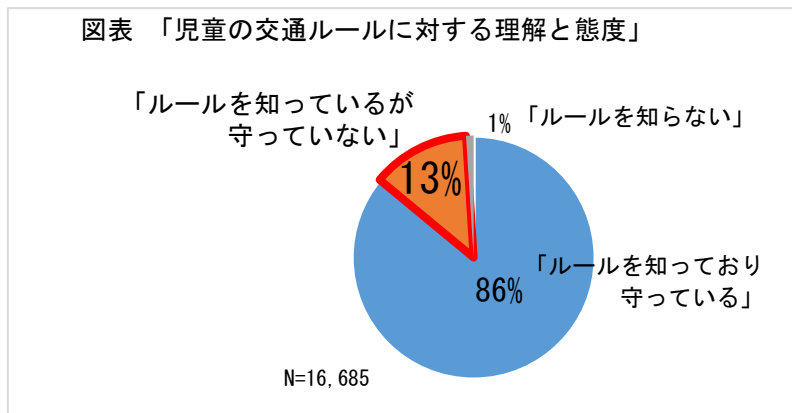
図表 小学生(6~12歳)の歩行中及び自転車乗用中における年齢別交通事故発生件数



※久留米市内の小学校では、自転車通学は行っていません。

また、久留米市では、小学3年生になり、交通安全教室を受講するまで、公道での自転車の乗用は、原則認めていません。

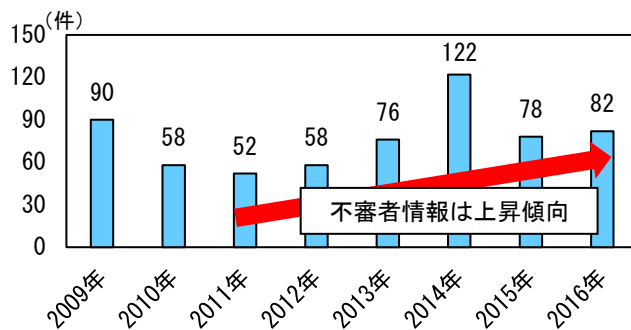
交通安全に関するアンケートによると、「交通ルールを知っており守っている」と回答した児童が86%と多い一方で、「交通ルールを知っているが守っていない」と回答した児童も13%いることがわかります。



(児童に「登下校時や放課後遊びに行く時、交通ルールを知っており、守っているか」についてアンケート)
 出展：あんぜんアンケート（市内の全小学校児童対象）

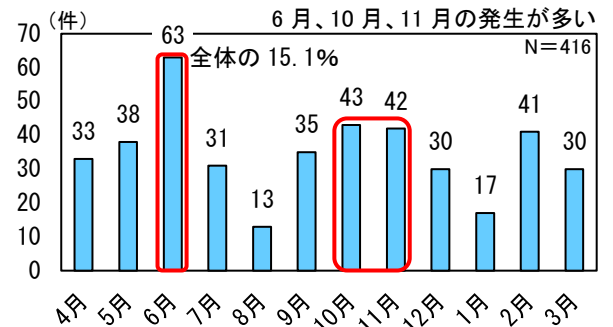
不審者に関する情報は、年間50～70件前後報告されていますが、近年は上昇傾向にあります。月別に報告件数を見ると、6月が最も多く全体の15.1%を占めています。

図表 不審者情報の報告件数の推移



出展：久留米市学校教育課統計

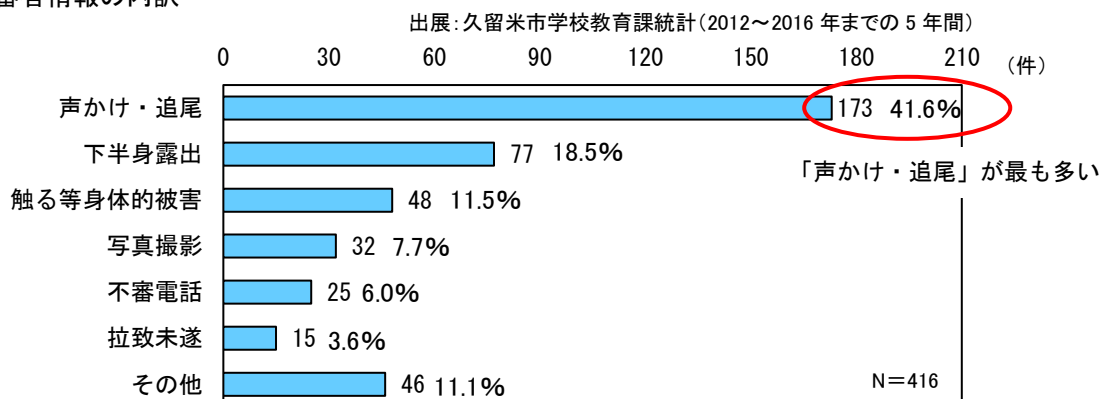
図表 月別不審者情報の報告件数



出展：久留米市学校教育課統計(2012～2016年までの5年間)

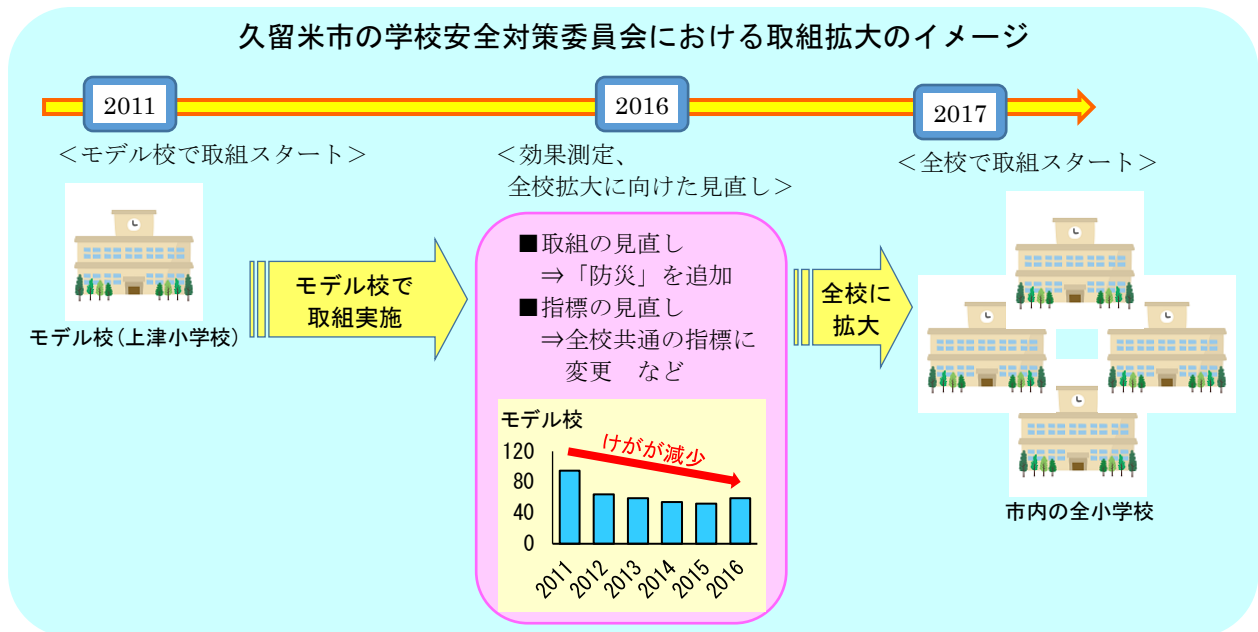
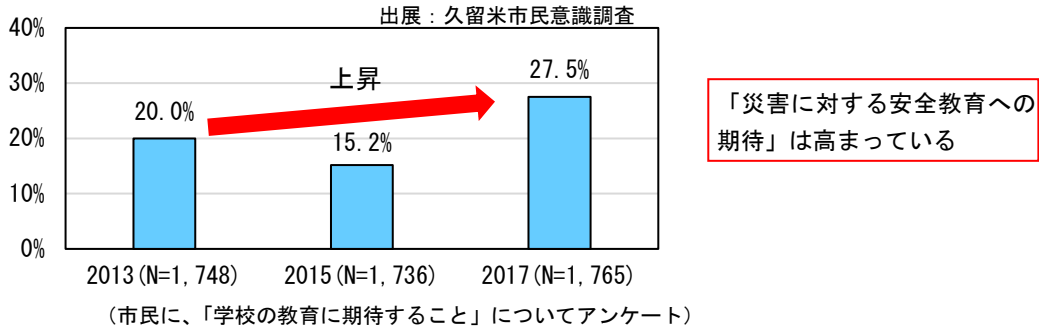
不審者情報の内訳は、「声かけ・追尾」が最も多く全体の41.6%を占め、次いで「下半身露出」が18.5%、「触る・つかむなどの身体的な被害」が11.5%と続いています。

図表 不審者情報の内訳



また、近年、多発する自然災害や「災害から身を守るための安全教育」に対する市民の期待感の高まりなどを踏まえ、学校安全対策委員会では「学校生活を送る中で発生する災害への対応」を認証後の新たな課題に設定して、災害が発生した場合に備えた「防災教育の実施」を取り組みに追加しました。

図表 「災害から身を守るための安全教育」への期待感（複数回答）



課題解決に向けた方向性と取組の整理

重点項目	課題		方向性	No.	取組（当初）	見直し	No.	取組（現在）
学校の安全	①	客観的 休み時間のけがは、校舎内では「教室」や「廊下」、校舎外では「運動場」が多い【図表時間帯】【図表場所】	学校で安全に過ごすためのルールやマナーの徹底	1	《学校内の安全指導》 校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施	⇒ 継続	1	《学校内の安全指導》 校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施 【対応する課題：①②③】
	②	学年が上がるほどけがが多くなる傾向がある【図表けが件数×学年】						
	③	主観的 学校内で安全に過ごすための認識や意識が低い						
	④	客観的 いじめの認知件数は、年間 500～600 件前後発生している【図表いじめ件数】	いじめの芽を摘む意識付け及び早期発見・早期対応	3	《学校内の安全指導》 いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施	⇒ 継続	3	《学校内の安全指導》 いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施 【対応する課題：④⑤】
	⑤	主観的 いじめを受けた児童が相談することは少なく、アンケート等による発覚が多い						
	⑥	客観的 「防災意識を高めるための教育」に対する期待が高い	防災意識の向上			⇒ 新規	4	《学校内の安全指導》 火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施 【対応する課題：⑥⑦】
	⑦	主観的 近年、多発する地震や水害により、災害から身を守る安全教育の見直しが必要						
	⑧	客観的 交通ルールを理解していても、守れていない児童がいる	交通ルール・マナー等の向上及び地域と連携した見守りによる事故の防止	4	《登下校・放課後の安全指導》 交通安全教育の実施	⇒ 継続	5	《登下校・放課後の安全指導》 交通安全教育の実施 【対応する課題：⑧⑨】
	⑨	交通上の危険予測が不十分なうえ、横断歩道の渡り方や自転車の乗り方に慣れていない						
	⑩	主観的 通学路には、交通量が多い箇所、歩道が狭い箇所など、事故の危険性が高い箇所がある						
	⑪	登下校時の安全を確保するには、関係機関と地域や保護者との連携が必要		5	《登下校・放課後の安全指導》地域・保護者と連携した交通指導の実施 【対応する課題：⑧⑩⑪】	⇒ 継続	6	
	⑫	客観的 不審者情報の件数は、年間 50～70 件程度報告されており増加傾向にある【図表不審者件数】	防犯上の身を守るための方法の習得及び地域と連携した見守りによる犯罪抑止	6	《登下校・放課後の安全指導》 防犯教育の実施	⇒ 継続	7	《登下校・放課後の安全指導》 防犯教育の実施 【対応する課題：⑫⑬】
	⑬	主観的 防犯グッズは多数あるが、不審者に遭遇した時に適切に使用できる児童は少ない						
			7	《登下校・放課後の安全指導》地域・保護者と連携した防犯の取組の実施 【対応する課題：⑪⑫⑬】	⇒ 継続	8		

※当初、上津小学校をモデル校として取り組みを進め、現在は各学校の特性を活かしながら全校へ拡大しています。

【学校安全】 3-① 《学校内の安全指導》校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施								
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校でのけがは、「休み時間」に最も多く発生し、校舎内では「教室」や「廊下」で起こるものが多い 学年が上がるほど、けがが多くなる傾向がある 						
	主観的課題	学校内で安全に過ごすための認識や意識が低い						
目標	学校内・校舎内でのけがの件数の減少							
内容	各学校の上級生児童で組織する保健委員会や安全委員会による呼びかけ活動を行い、教室や廊下で安全に過ごす意識を高める。							
対象者	児童							
実施者	児童、教職員							
対策委員会の関わり	取組に対する助言							
5年間の活動内容	上津小		<p>昼休みに教室や廊下で安全に過ごすことができるようにするために、保健委員会児童が校内安全マップや安全啓発ポスターを作成し掲示する活動、けがで保健室を利用した人数の集計をグラフ化し廊下に掲示する活動などを行った。</p>					
	全校		<p>モデル校で効果をあげた、上級生で組織された委員会を中心とした呼びかけ活動を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、保健委員会や安全委員会による呼びかけ活動を実施している。</p> <p><取組例>保健委員会の児童が昼休みに校内を巡回し、「右側通行」「走らない」など廊下の通り方について呼びかける活動</p>					
質的成果	児童による委員会活動において、けがの多い場所や時間帯に対応するなどの工夫が見られるようになった。							
指標	内容		単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	旧	校内安全マップの作成、啓発ポスターの作成と掲示【上津小】	回	1	1	1	1	/
	新	児童による主体的な取組及び実施回数【全校】		見直し後 ⇒				
【短期】認識・知識	旧	校舎内を走らないように意識している児童の割合[上津小アンケート]	%	-	76.1	85.4	92.4	/
	新	校舎内のルールが分かる児童の割合[各学校の校舎内の安全に関するアンケート集計]		見直し後 ⇒				
【中期】態度・行動	旧	校舎内を走らないように意識している児童の割合[上津小アンケート]	%	-	76.1	85.4	92.4	/
	新	校舎内のルールを守ろうとする児童の割合[各学校の校舎内の安全に関するアンケート]		見直し後 ⇒				
【長期】状況	旧	学校でのけがの件数【上津小】 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	件	59	54	52	59	/
	新	校舎内でけがをした児童の割合 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	%	4.4	4.6	4.3	4.8	



【学校安全】 3-② 《学校内の安全指導》校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取組の実施



課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校でのけがは、「休み時間」に最も多く発生し、校舎外では「運動場」で起こるものが多い ・学年が上がるほど、校舎外のけがが多くなる傾向がある 						
	主観的課題	学校内で安全に過ごすための認識や意識が低い						
目標	学校内・校舎外でのけがの件数の減少							
内容	各学校の上級生児童で組織する児童会が、代表委員会や全校児童集会等を活用した、自主的・自治的な活動を行い、運動場で安全に遊ぶ意識を高める。							
対象者	児童							
実施者	児童、教職員							
対策委員会の関わり	取組に対する助言							
5年間の活動内容	上津小	昼休みに運動場で安全に遊ぶことができるようにするために、全校集会で児童会による外遊びの紹介や児童会を中心とした外遊びのルールづくりなど、児童会による自主的・自治的活動を行った。						
	全校	モデル校上津小学校で効果をあげた、児童会による自主的・自治的活動を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、児童会が全校集会や給食時間の校内放送で外遊びのルールや注意を呼びかける取組を行っている。						
質的成果	児童による委員会活動において、けがの多い場所や時間帯に対応するなどの工夫が見られるようになった。							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	旧	児童主体での楽しく安全な遊びの紹介【上津小】	回	1	1	1	1	/
	新	児童による主体的な取組及び実施回数【全校】		見直し後 ⇒				
【短期】認識・知識	旧	安全に過ごすように気をつけている児童の割合[上津小アンケート]	%	-	76.1	96.0	96.0	/
	新	校舎外のルールが分かる児童の割合[各学校の校舎外の安全に関するアンケート]		見直し後 ⇒				
【中期】態度・行動	旧	安全に過ごすように気をつけている児童の割合[上津小アンケート]	%	-	76.1	96.0	96.0	/
	新	校舎外のルールを守るようとする児童の割合[各学校の校舎外の安全に関するアンケート]		見直し後 ⇒				
【長期】状況	旧	学校でのけがの件数【上津小】 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	件	59	54	52	59	/
	新	校舎外でけがをした児童の割合 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]		%	3.5	4.6	3.7	



【学校安全】 3-③ 《学校内の安全指導》いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、いじめの認知件数は、年間 500～600 件程度発生している ・市民は「いじめや体罰を防止し、安心して学べる学校づくり」を教育行政に求めている 						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを受けた児童は、大人に相談することは少なく、周囲の友達やアンケート等で発覚することが多い ・表面化している「SNS によるネットいじめ」は、全体の 1%程度ではあるが、潜在的にはさらに多くのいじめが起きていると考えられる 						
目標	いじめ解消率の向上							
内容	人間関係調整力を育むソーシャルスキルトレーニングや、いじめを発見するための定期的なアンケート、教育相談など、いじめの芽を摘む積極的な取組により、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を図る。							
対象者	児童							
実施者	教職員、関係機関							
対策委員会の関わり	取組に対する助言							
5年間の活動内容	<p>上津小 いじめの未然防止、早期発見・早期対応を図るために、1年に3回のいじめ無記名アンケートの実施と気になる児童との面談、保護者へのいじめアンケート、校内いじめ問題対策委員会やいじめに係る教職員研修など、いじめの芽を摘む取組を行った。</p> <p>全校 モデル校上津小学校で効果をあげた、いじめの芽を摘む積極的な活動を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、相談ポストの設置や他者と気持ちのよい接し方について考えさせるソーシャルスキルトレーニングなどを実施している。</p>							
質的成果	いじめ防止の取り組みの質を高めるために、いじめに多く見られる「冷やかし・からかい・悪口」に対応するなど取り組みの工夫を行った。							
指標	内容		単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	旧	いじめに関する教職員研修の実施【上津小】	回	1	1	1	1	/
	新	各学校の実態に応じた取組回数【全校】		見直し後 ⇒				
【短期】認識・知識	旧	いじめに関する児童アンケートの実施【上津小アンケート】	回	11	11	11	11	/
	新	いじめは許されないと分かっている児童の割合 [各学校のいじめに関するアンケート]	%	見直し後 ⇒				
【中期】態度・行動	旧	いじめに関する教育相談の実施【上津小アンケート】	回	3	3	3	3	/
	新	いじめをしないように気をつけている児童の割合 [各学校のいじめに関するアンケート]	%	見直し後 ⇒				
【長期】状況	旧	いじめの認知件数【上津小調査】	件	-	0	6	2	/
	新	いじめの解消率 [児童生徒の問題行動に関する月例調査]	%	91.6	93.7	90.9	88.5	


【学校安全】 3-④ 《学校内の安全指導》火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施 <新規>

課題	客観的課題	小・中学校の安全教育の中で「防災意識を高めるための教育」に対する市民の期待は高い						
	主観的課題	近年、多発する地震や水害により、災害から身を守る安全教育の見直しを図る機運が高まっている						
目標	災害時の避難に不安を感じない児童の増加							
内容	実際の災害時を想定した、実践的な避難訓練などにより、万が一の災害時に落ち着いて安全に避難できる知識や態度の育成を図る。							
対象者	児童							
実施者	教職員、関係機関							
対策委員会の関わり	取組に対する助言							
5年間の活動内容	<p>市内全小学校において、災害の際に落ち着いて安全に避難することができるようにするために、実際の火災を想定した体験的な避難訓練、火災や地震が起こった時のために日常的に避難場所を確認する取組、毎年3月11日東日本大震災の日の校内放送、着衣水泳などを実施している。</p>							
質的成果	市防災担当課との連携強化							
指標	内容		単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	新	各学年の取組及び実施回数	回					1
【短期】認識・知識	新	災害時の避難の合言葉が分かる児童の割合 [各学校の防災に関するアンケート]	%					97
【中期】態度・行動	新	災害時の避難の仕方を踏まえて避難訓練にのぞむ児童の割合 [各学校の防災に関するアンケート]	%					91
【長期】状況	新	学校内での災害に不安を感じない児童の割合 [各学校の防災に関するアンケート]	%					88

【学校安全】 3-⑤ 《登下校・放課後の安全指導》交通安全教育の実施

課題	客観的課題	・交通ルールを理解していても、守れていない児童がいる						
	主観的課題	交通上の危険に対する予測が不十分なうえ、横断歩道の渡り方や自転車の乗り方に慣れていない						
目標	登下校時・放課後など学校外でけがをする児童の割合の減少							
内容	地域や保護者、外部団体が参画した、実践的な交通安全教室の実施などにより、交通ルールについての理解や交通ルールを守ろうとする態度の育成を図る。							
対象者	児童							
実施者	教職員、地域、保護者、関係機関							
対策委員会の関わり	交通安全教室の実施に対する連携(ゲストティーチャー、体験コーナーの運営)							
5年間の活動内容	<p>上津小</p> <p>交通ルールについての理解や交通ルールを守ろうとする実践的な態度を育成するために、学校・家庭・地域・外部機関が連携して、道路コース・技能コースの2コースを設定し実際の環境や状況を想定した自転車交通安全教室を実施した。</p>							
	<p>全校</p> <p>モデル校上津小学校で効果をあげた、家庭や地域、外部団体が参画した体験的な交通安全教室などの取組を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、警察と連携した歩行訓練教室や自転車教室、自動車学校と連携した交通安全教室などを実施している。</p>							
質的成果	警察や地域、保護者との連携強化							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	旧 保護者や地域団体を活用した実践的な交通安全教室の実施【上津小】	回	1	1	1	1	/	
	新 各学年の取組及び実施回数【全校】		見直し後 ⇒					1
【短期】認識・知識	旧 ヘルメットの所持[上津アンケート]	%	-	26.8	33.8	38.9	/	
	新 交通ルールが分かる児童の割合[各学校の交通安全に関するアンケート]		見直し後 ⇒					99
【中期】態度・行動	旧 ヘルメットの着用[上津小アンケート]	%	-	13.0	14.0	10.3	/	
	新 交通ルールを守ろうとする児童の割合[各学校の交通安全に関するアンケート]		見直し後 ⇒					86
【長期】状況	旧 交通ルール、マナーについての正しい認識[上津小アンケート]	%	-	76.1	-	-	/	
	学校外でのけがの件数[日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	件	5	6	10	8		
	新 学校外でけがをした児童の割合[日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	%	0.9	1.0	0.6	0.7		0.8

【学校安全】 3-⑥ 《登下校・放課後の安全指導》地域・保護者と連携した交通指導の実施

課題	客観的課題	・交通ルールを理解していても、守れていない児童がいる						
	主観的課題	・通学路には、交通量が多く歩道が狭いなど、事故の危険性が高い箇所がある ・登下校時の事故や犯罪に不安を感じている児童や保護者は多く、子どもの安全を確保するためには、関係機関と地域や保護者が連携した取り組みが不可欠である						
目標	登下校時・放課後など学校外でけがをする児童の割合の減少							
内容	地域の交通安全上の危険箇所や危険が多い時間帯に応じた交通指導や、地域組織や PTA 組織が連携した交通指導の実施により、地域の交通安全上の危険を理解し、交通安全に気を付けて登下校する態度の育成を図る。							
対象者	児童							
実施者	教職員、地域、保護者、関係機関							
対策委員会の関わり	交通指導の連携・調整							
5年間の活動内容	<p>上津小 安全に気を付けて登下校する態度を育成するために、PTA や地域の交通安全協会等が、地域の危険な場所や時間帯などを調整して登下校時の交通指導を実施した。</p> <p>全校 モデル校上津小学校で効果をあげた、危険箇所・時間帯に対応した交通指導などの取組を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、交通安全上の危険箇所に重点を置いた交通指導を実施している。</p>							
質的成果	警察や地域、保護者との連携強化							
指標	内容		単位	2013	2014	2015	2016	2017
活動指標	旧	PTA や各地域団体による交通指導の実施【上津小】	回	36	36	36	36	/
	新	各学年の取組及び実施回数【全校】		見直し後 ⇒				
【短期】認識・知識	旧	適切な人員の配置[上津小調査]	人	-	640	690	700	/
	新	地域の交通安全上の危険箇所が分かる児童の割合 [各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	見直し後 ⇒				
【中期】態度・行動	旧	適切な人員の配置[上津小調査]	人	-	640	690	700	/
	新	交通安全に気をつけて登下校する態度 [各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	見直し後 ⇒				
【長期】状況	旧	交通ルール、マナーについての正しい認識 [上津小アンケート]	%	-	76.1	-	-	/
	旧	学校外でのけがの件数【上津小】 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	件	5	6	10	8	
	新	学校外でけがをした児童の割合 [日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況]	%	0.9	1.0	0.6	0.7	

【学校安全】 3-⑦ 《登下校・放課後の安全指導》防犯教育の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報の件数は、年間 50～70 件程度報告されており増加傾向にある ・小・中学校での安全教育の中で、「不審者対応の仕方を身に付ける防犯教育」に対する市民の期待は高い 						
	主観的課題	防犯グッズなどは多数あるが、不審者に遭遇した時に適切に使用できる児童は少ない						
目標	登下校時に不安を感じない児童の割合の向上							
内容	実際に不審者に遭遇した時に咄嗟の対応ができるような実践的な防犯教室の実施により、不審者対応に対する理解や実際の対応に生かしていこうとする態度の育成を図る。							
対象者	児童							
実施者	教職員、地域、保護者、関係機関							
対策委員会の関わり	防犯教室の実施に対する連携(ゲストティーチャー、体験コーナーの運営)							
5年間の活動内容	<p>上津小 不審者対応についての理解や、それを実際の対応に生かしていこうとする態度を育成するために、子ども達と地域の方々で連携して作成する交通安全上・防犯上の危険箇所を記載した校区の安全マップを活用しながら、実際の声かけ事案を想定した不審者対応の仕方を体験する防犯教室を実施した。</p>							
	<p>全校 モデル校上津小学校で効果をあげた、家庭や地域、外部団体が参画した体験的な防犯教室などの取組を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、ロールプレイを取り入れ、実際の声かけ事案等への対応の仕方について話し合うなど、実践的な防犯教室を実施している。</p>							
質的成果	警察や地域、保護者との連携強化							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	旧 校区安全マップの作成と不審者対応の安全教育の実施【上津小】	回	1	1	1	1	見直し後 ⇒ 1	
	新 各学年の取組及び実施回数【全校】							
【短期】認識・知識	旧 「子ども 110 番の家」の認知[上津小アンケート]	%	-	66.6	70.4	75.0	見直し後 ⇒ 91	
	新 不審者への対処法が分かる児童の割合[各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]							
【中期】態度・行動	旧 登下校時の不安感[上津小アンケート]	%	-	22.5	27.0	23.0	見直し後 ⇒ 61	
	新 不審者への対処法を実践できる児童の割合[各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]							
【長期】状況	旧 不審者による被害[上津小アンケート]	件	-	3	2	0	見直し後 ⇒ 82	
	新 登下校時に不安を感じない児童の割合[各学校の登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%						



【学校安全】 3-⑧ 《登下校・放課後の安全指導》地域・保護者と連携した防犯の取組の実施

課題	客観的課題	不審者情報の件数は、年間 50～70 件程度報告されており増加傾向にある						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路に「子ども 110 番の家」があることを知っている児童は少ない ・登下校時の事故や犯罪に不安を感じている児童や保護者は多く、子どもの安全を確保するためには、関係機関と地域や保護者が連携した取り組みが不可欠である 						
目標	登下校時に不安を感じない児童の割合の向上							
内容	地域や保護者と連携した校区の危険箇所探検や安全マップづくりなどの取組により、地域の防犯上の危険箇所への理解や不審者に気を付けて登下校する態度の育成を図る。							
対象者	児童							
実施者	教職員、地域、保護者、関係機関							
対策委員会の関わり	防犯の取組の連絡・調整							
5年間の活動内容	<p>上津 地域の防犯上の危険箇所への理解や不審者に気を付けて登下校する態度を育成するために、第2学年生活科の「校区探検」の学習で、地域の方々や保護者と校区を探検して「子ども110番の家」を探したり、防犯上の危険箇所を探したりして安全マップをつくる取組を実施しました。</p> <p>全校 モデル校上津小学校で効果をあげた、地域や保護者と連携した安全マップづくりや校区探検の取組を、市内全小学校共通の取組とするために、各学校の実態に応じて、地域や保護者と連携して地域の危険箇所を確認したり防犯マップをつくらしたり、地域の方から防犯の話をしてもらったりする取組を実施している。</p>							
質的成果	警察や地域、保護者との連携強化							
指標	内容	単位	2013	2014	2015	2016	2017	
活動指標	旧 「校区安全マップ」見直しと防犯パトロール実施【上津小】	回	24	24	24	24	見直し後 ⇒ 1	
	新 各学年の取組及び実施回数【全校】							
【短期】認識・知識	旧 校区安全マップの活用[上津小調査]	増減	-	増	増	増	見直し後 ⇒ 71	
	新 地域の防犯上の危険箇所が分かる児童の割合 [各学校の登下校や放課後の防犯に関するアンケート]	%						
【中期】態度・行動	旧 登下校時の不安感[上津小アンケート]	%	-	22.5	27.0	23.0	見直し後 ⇒ 61	
	新 不審者に気を付けて登下校する児童の割合 [各学校の登下校や放課後の防犯に関するアンケート]							
【長期】状況	旧 不審者による被害[上津小調査]	件	-	3	2	0	見直し後 ⇒ 69	
	新 登下校時に不安を感じない児童の割合 [各学校の登下校や放課後の防犯に関するアンケート]	%						

